

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまりの庭			
○保護者評価実施期間	2025年3月17日		～	2025年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35人	(回答者数)	20人
○従業者評価実施期間	2025年3月17日		～	2025年3月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高機能自閉症やグレーゾーンといわれる子どもが多く通所しており、それぞれの特性や困りごとに応じた柔軟な対応を行っています。ことばの使い方や感情のコントロール、人との関わり方など、日常生活や集団生活でつまずきやすい部分を丁寧に支援しています。	見た目にはわかりにくい困りごとを持つお子さんが多いため、言葉だけでなく視覚的な提示や具体的な行動例を用いた支援を工夫しています。また、活動の切り替えや感情のコントロールが苦手な子どもには、事前の予告やクールダウンスペースの活用、安心できるスタッフとの関わりを通して、無理なく参加できる環境を整えています。	子どもの特性や発達段階をより客観的に把握する。保護者との面談や振り返りの機会を増やし、家庭との連携を強化することで、一貫性のある支援へつなげる。実践的なSST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、社会性の向上を目指す。
2	法人内に就労支援事業所があるため、進学や就職など将来のライフステージを意識した支援が可能です。「子どもの今」と「将来の自立」の両方を見据えながら、長期的な視点で支援に取り組むことができます。	法人内の就労支援事業所との連携を活かし、小学生のうちから「働くこと」や「社会とのつながり」を意識した関わりを取り入れています。簡単な作業体験やルールのある活動なども行い、段階的に自己理解や自立心を育てる支援を実践しています。	就労支援事業所との交流を通して、子どもたちが「働く場」をイメージできるよう、現場見学や職員とのかかわりの機会を設ける。保護者向けに進路・就労に関する勉強会などを企画し、不安の軽減と情報共有の機会をつくる。
3	児童発達管理責任者・保育士・教員免許・児童指導員・社会福祉士などの有資格者が複数在籍しており、発達支援の専門的な知識をもとにした療育を提供しています。安心・安全な環境の中で、適切な関わりや支援ができる体制が整っています。	有資格者がチームで連携し、行動の背景を考えた上で支援内容を柔軟に調整しています。記録やケース検討も丁寧にを行い、個別支援計画に基づいた対応を実現しています。また、研修や勉強会も定期的に行い、支援の質の向上に努めています。	勉強会を定期的で開催し、スキルアップを図る。外部研修・講演会などへの積極的な参加を促進し、支援の幅を広げる。事例検討・振り返りを定期化し、支援の質の維持・向上を継続していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者対応が個々の職員の関わり方に左右されやすく、支援の深さや頻度に差が出ることがある。家庭との連携や情報共有の方法を標準化し、全体としてのサポート力を強化する必要がある。	保護者のニーズや関わり方が家庭ごとに大きく異なる。保護者対応が職員の裁量に委ねられがちで、統一的な支援方針が浸透しきっていない。定期的な面談・フィードバックの仕組みが整備されていない。	担当となる職員が積極的に保護者ともコミュニケーションを図り、情報共有と信頼関係の一貫性を図る。定期面談の実施とおたよりで継続的な連携を図る。保護者向けに「気軽に話せる茶話会」や「参観日」を開催し、参加しやすい雰囲気をつくる。
2	有資格者がいる一方で、スタッフごとの経験や理解の差により、対応にズレが出る場合がある。統一した支援方針や共通理解を深めるための時間や仕組みづくりが必要。	スタッフの経験年数や専門性に差がある。子どもの特性に応じた柔軟な対応が求められる一方で、明確なマニュアルや共通理解が不足している。ケース共有や振り返りの時間が十分に確保できていない。	支援の共通方針を明文化し、全職員がいつでも確認できるようにする。ケース共有ミーティングや支援振り返りの時間を確保し、視点のすり合わせを行う。OJTと有資格者による定期的な研修の実施で、支援力の底上げを図る。
3	法人内に就労支援事業所があるという強みがあるものの、日々の療育にその視点を十分に取り入れられているとは言い難い。もっと実践的な「将来につながる支援」を計画的に取り入れる必要がある。	放課後等デイサービスと就労支援との間に年齢や支援内容のギャップがあり、つなげ方が不明確になりやすい。両事業所間の情報交換や実践的な交流の機会が少ない。子どもたちが「就労」を身近に感じるための工夫がまだ十分でない。	就労支援事業所との連携ミーティングを設け、支援方針の共有・見学や体験の機会をつくる。高学年向けに「将来のはたらく」をテーマにした体験活動を療育に組み込む。就労事業所の利用者との交流する機会をつくる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人プラナの森 ひだまりの庭

公表日 令和7年4月日

利用児童数 35名

回収数 20枚 割合57%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	95%	0%	5%	0%	もう少し広いといいなと思う。	環境改善に努め、空間を広く確保できるようにしていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	80%	10%	5%	5%	保護者側から見れば少ないかな?と思う。一般の人も雇用してもいいのでは。	必要な職員の配置ができるよう努めていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	80%	20%	0%	0%		階段や狭い廊下は構造上の問題でもあるため、懸念である。事故のないように努めていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		毎日の清掃や子ども達の活動に合わせた空間づくりに努めていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	95%	5%	0%	0%	いつも丁寧なみて、適切な支援をしてくださりありがとうございます。	担当制を取り入れ、子ども達一人一人に応じた支援に努めていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		支援プログラムに沿って、支援を提供していきます。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	95%	5%	0%	0%		今後も子どもの日々の様子を観察しつつ、保護者からの聞き取りからニーズを把握し、計画を作成していきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	95%	5%	0%	0%		保護者に確認していただきながら、支援に必要な項目が適切に設定されるように努めていきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		療育記録に目標を記載し、計画に沿った支援を提供していきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	90%	0%	0%	10%		子ども達の成長や季節に応じた内容を設定していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	70%	10%	0%	20%	また交流できる機会があると嬉しいですが、同じ系列の事業所内の交流はあっても児童クラブとの交流はないですね?地域の児童クラブとの交流すごく良かったです。	令和6年度は1回実施いたしました。残念ながら、当日の利用者のみの対象となってしまうかもしれません。今後も機会を作り、その様子を発信していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	95%	0%	0%	5%		契約時に説明をしている。これからも、丁寧な説明をしていくとともに、不明な点については確認して抱くようにしていきます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	95%	5%	0%	0%		子ども達一人一人に適した支援内容を提案し、保護者に説明をしながら確認していただいています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	90%	0%	0%	10%		保護者会で、情報共有ができる機会を提供しています。必要に応じて、研修会などを検討していきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	95%	5%	0%	0%		連絡ノートの活用や直接子どもの状況・様子を伝えています。保護者からの情報を踏まえて計画を立案しています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	85%	15%	0%	0%		定期的な面談で、子どもの様子を聞き取り、寄り添いながら進めていきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		保護者の気持ちに寄り添い、お話を聞きながら、必要に応じて面談の機会を設けていきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	70%	20%	0%	10%		保護者会の開催を事前にお伝えし、多くの参加を募っていきます。交流やイベントの開催も検討していきます。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	90%	10%	0%	0%		相談や申し入れがあった際は、迅速かつ適切に対応するとともに、職員で周知していきます。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		コミュニケーションを重視するとともに、連絡ノートやおたよりで情報発信に努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	90%	10%	0%	0%	SNSのアカウントができれば教えてほしいです。	Instagramやホームページを活用し、情報発信に努めています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	95%	5%	0%	0%		個人情報の取り扱いについて年度初めに確認をし、十分に注意しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	80%	10%	0%	10%		マニュアルに沿って、訓練を実施していきます。周知方法として、ホームページ等で公開することを検討していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	75%	10%	0%	15%	もう少し増やしてもいいと思う(月1回)。	定期的に訓練を実施するとともに、その様子を発信していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	90%	5%	0%	5%		年間行事に避難訓練等の行事を記載し周知していきます。実施のお知らせを掲示するなどして周知していきます。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	90%	0%	0%	10%		事故等が発生した際は、迅速に対応し、連絡体制を整えています。状況の説明も行っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	95%	5%	0%	0%		安心して通えるように、日々のコミュニケーションを充実していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	95%	5%	0%	0%	毎回とても楽しみに通っています。	子ども達が愉しんで通えるような活動を提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	95%	5%	0%	0%		みなさんに喜んでいただける事業所を目指して、研鑽に努めています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人プラナの森 ひだまりの庭		公表日		令和 7 年 4 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	運動の部屋を有効活用して、時間で区切るなどしている。	不用品の撤去をして活用スペースを広げる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	担当の職員を配置するなどしている。	個別サポートが必要なこどもに対する配置が必要。 送迎支援の体制に改善が必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20%	80%	壁の角に緩衝材を取り付けている。	2階に事業所があり階段を上らないといけな い。階段が急で危険を感じることもある。 所々傾きがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	80%	20%	毎日清掃をしている。	ブラインドなど汚れが気になる箇所がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	ワークルームや個室を活用している。	使用中でも入ってきてしまうことがある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎朝のミーティングで振り返りや気になったことを共有している。	伝達シートを活用して情報共有が必要。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	内容を踏まえて業務改善を図るようにしている。	保護者とのコミュニケーションをより強化する必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	日々のミーティングで話し合うことができている。	職員同士のコミュニケーションを大切に、 気付いた事があれば改善に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	20%	80%	未実施	未実施のため、取り入れていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	80%	20%	法人内での研修を設定して実施できた。	研修の機会が少なかった。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	60%	40%	職員で話し合いをし、プログラムを作成している。	支援プログラムの更新や見直しなどの改善が必要。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	保護者とのやり取りを共有している。	こどもや保護者のニーズを聞き取り、必要な支援内容を計画に反映させる必要がある。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	職員で確認をして進めている。	今後も継続していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	ミーティングで周知している。	療育記録を活用しながら共有していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	ツールを用いて作成している。	アセスメントツールを活用していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	個別支援計画に支援内容を取り入れ、具体的に配慮している。	ガイドラインに沿った計画書の作成を継続していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	こどもの様子や活動の反省等を踏まえて、内容を考える事ができている。	職員で話し合いながら活動プログラムを設定することを継続していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	こどもの状況に合わせて行っている。	こども一人一人の成長や発達に応じた内容を吟味していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	こどもの状況に合わせて行っている。	こどもの状況に応じて計画・支援していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	担当を配置している。	継続してミーティングを実施していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	40%	60%	翌日のミーティングで情報共有をしている。	全体としては翌日に実施しているが、職員間のコミュニケーションとして都度共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎日療育記録を作成している。	記録の書き方などについてもスキルアップが必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的に保護者との面談を実施している。	今後も定期的なモニタリングを継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%	0%	制作活動、余暇活動等取り入れて行うことができています。	継続して支援をしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	交渉する機会を設けている。	自立に向けた支援を継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児発管と主任が主に対応している。	会議に参加できていない指導員もいるため経験を積んでいく。なるべく担当の職員が参加できるようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて確認をしている。	関係機関との連携を強化していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	下校時刻表を確認しながら送迎を組んでいる。	学校との情報共有を強化していきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	80%	20%	見学・体験を実施している。	法人内に限らず情報共有をしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	担当者会議にて引継ぎをしている。	今後も担当者会議に参加し情報共有をしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	60%	40%	積極的に研修に参加している。	連携を強化していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	児童クラブとの交流を実施した。	年に1回の実施に留まっているため、機会を増やしていきたい。
保護者への	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	参加している。	継続して参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	保護者との関りを大切にしている。	連絡ノートの活用や保護者とのコミュニケーションの時間を有効に活用していきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40%	60%	保護者会を開催している。	保護者会で一緒に学ぶ機会を設定していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に説明をしている。	不明な点について確認ができるように、離しやすい関係を築いていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	こどもや保護者の意向を優先的に考えている。	こどもや保護者の声を聴く機会を設定して、確認しながら支援を提供していきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者に説明をしている。	今後も同意を得た上でサービスを提供していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	連絡ノートや保護者の様子を伺いながら、悩みがないか確認している。	悩みや不安に気づき、迅速な対応に心がけていく。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者会を開催している。	より多くの保護者の方に保護者会への参加を促していきたい。	

説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情に対して真摯に向き合うようにしている。	今後も迅速に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	ブログの更新をしていた。	おたよりだけでなく、SNSやHP等でも情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	保護者に書面にて確認を取っている。	年度初めに再度書面にて確認しながら、留意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	都度確認をしている。	今後も継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	40%	60%	ゴミ拾いや雪かきを実施した。	地域のイベントに参加したり清掃活動などにも積極的に参加していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	掲示をしてお知らせをした。	定期的に訓練を実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	訓練を実施した。	今後も計画的に実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	アセスメントシートを活用して聴き取りをした。	必要に応じて対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	アセスメントシートを活用して聴き取りをした。	必要に応じて対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	訓練を実施した。	必要な訓練や研修に参加していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	掲示をしてお知らせをした。	保護者との連携手段を見直していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	80%	20%	対応策について職員で周知をした。	職員へ対応策を周知していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止の研修に参加し、全体で周知した。	研修に参加し適切な対応を心掛けていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	60%	40%	現在該当者なし	身体拘束廃止に向けて取り組んでいく。スピーチロックに注意する。